

NEWS BRIEFING

ビッグバンの残光

The big bang's afterglow

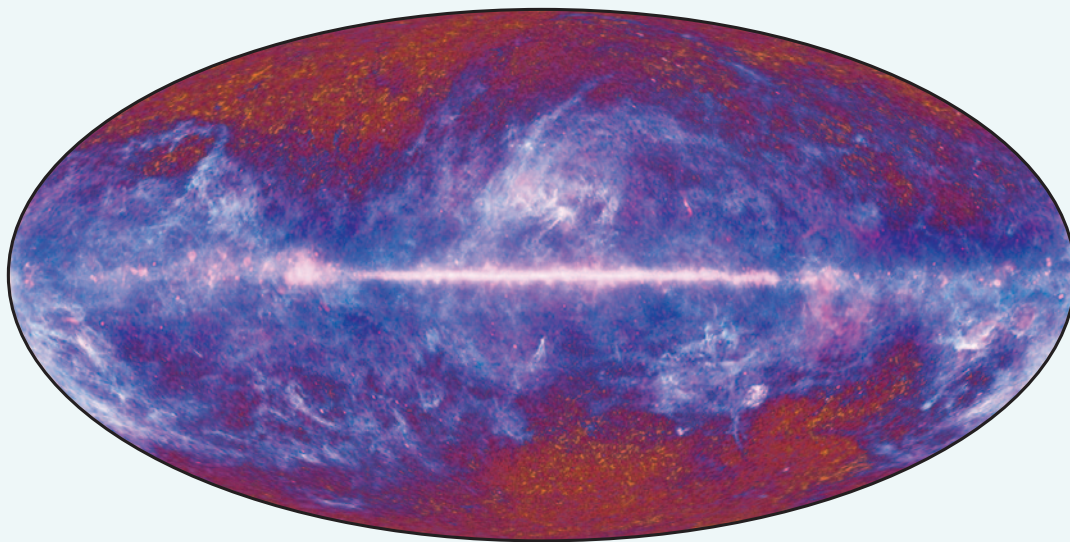
2010年7月8日号 Vol. 466 (164)

欧州宇宙機関 (ESA) は、プラック衛星の望遠鏡が撮影した宇宙背景放射 (CMB) の、初の全天画像を公開した。CMB (銀河系本体のディスクの上下に写った、まだら

模様) は、約 137 億年前に宇宙が始まったところに生成した光子が作り出す、宇宙に遍在する残光だ。プランク衛星は、こうした光子の温度揺らぎの地図を作製するために設計された一連の探査機の中で最新のものであり、2009 年に ESA に

より打ち上げられた (*Nature* **458**, 820–824; 2009)。今回の全天画像は、約 9 か月にわたる観測に基づいて作製されたもので、宇宙の構造と組成に関する天文学者の理解を深める役に立つことが期待されている。 ■

(翻訳: 三枝小夜子)



ESA/LFI & HFI CONSORTIA